

令和7年度学校評価

学校評価

調査結果と考察



葛城市立新庄北小学校

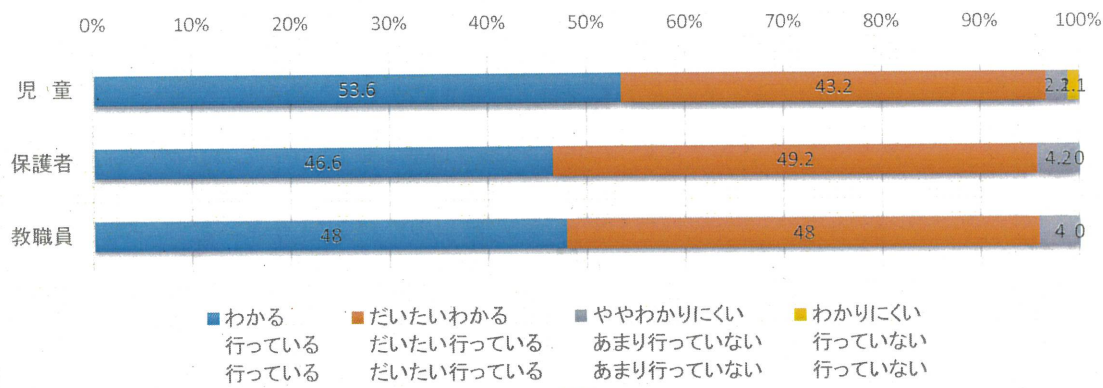
調査結果と考察

①「分かる授業」「楽しい授業」の充実

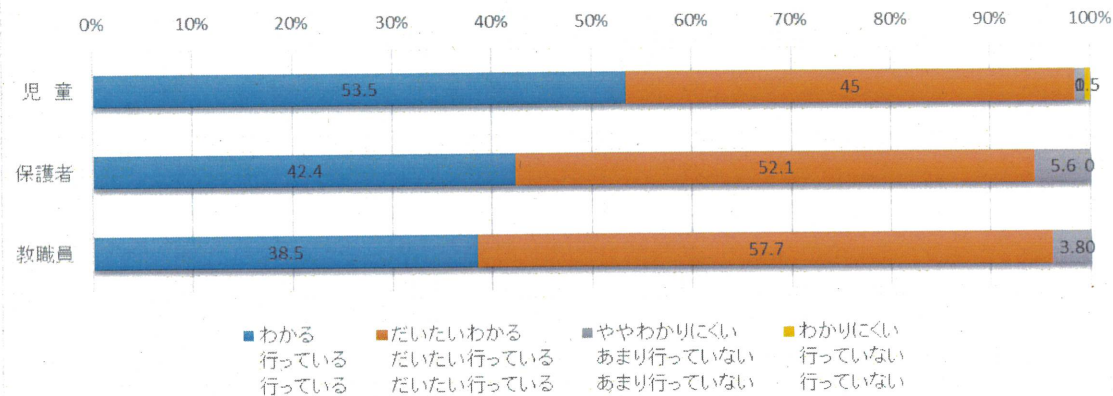
対象	質問事項
児童	あなたにとって、授業はわかりやすいですか？
保護者	教員は、わかりやすい授業を行っていると思いますか？
教職員	学校やあなたは、子どもたちにとって、わかりやすい授業や支援を行っていると思いますか？

	わかる 行っている 行っている	だいたいわかる だいたい行っている だいたい行っている	ややわかりにくい あまり行っていない あまり行っていない	わかりにくい 行っていない 行っていない	(%)		
児童	53.6	43.2	2.2	1.1		児童	201名
保護者	46.6	49.2	4.2	0		保護者	122名
教職員	48	48	4	0		教職員	26名

令和7年度「分かる授業」「楽しい授業」の充実



令和6年度「分かる授業」「楽しい授業」の充実



授業に関するアンケートについて昨年度と比較し、児童：53.5% → 53.6%、児童：53.5% → 53.6%、保護者：42.4% → 46.6% (+4.2ptの上昇) 教職員：38.5% → 48.0% (+9.5ptの大幅上昇)となり、肯定的な回答が多かった。

昨年度に引き続き教職員が分かりやすい授業を心がけ、校内研修や指導方法の共通理解、授業工夫を行ってきた。また、授業での活動を様々な形で保護者に伝えたことも肯定的な意見となったといえる。

1. 1%の児童がわかりにくいと回答している。今後もICTの効果的な活用をした授業工夫とICTを活用した児童が「自分のペースで学べる環境」をつくり、個別最適な学びの視点を取り入れ、習熟度に応じたフィードバックを強化し、基礎基本の反復練習の継続を実践していきたい。

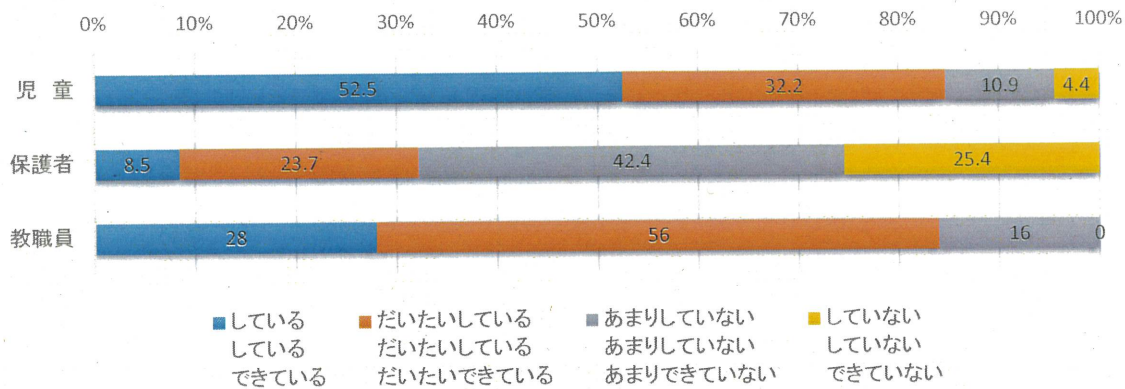
調査結果と考察

③家庭学習の充実

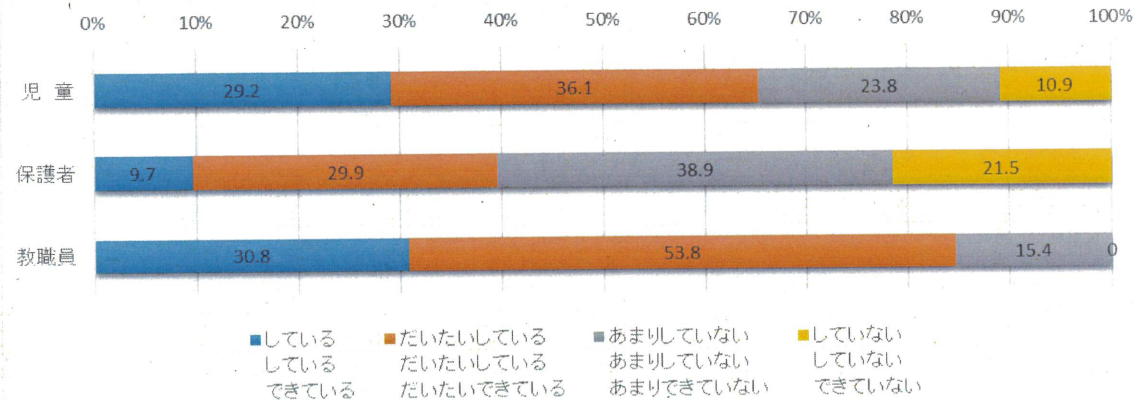
対象	質問事項
児童	あなたは、お家で宿題や習い事以外で自分で自主的に学習していますか？
保護者	お子様は、お家で宿題や習い事以外で自分で自主的に学習していますか？
教職員	学校やあなたは、自主学習をする子どもを育てることができていますか？

	している している できている	だいたいしている だいたいしている だいたいできている	あまりしていない あまりしていない あまりできていない	していない していない できていない	(%)
児童	52.5	32.2	10.9	4.4	児童 202名
保護者	8.5	23.7	42.4	25.4	保護者 122名
教職員	28	56	16	0	教職員 25名

令和7年度家庭学習の充実



令和6年度家庭学習の充実



自分で自主的に学習していると回答した児童は 65.3% → 84.7%(+19.4ptの大幅上昇)となった。これは今年度の研究テーマ「自分を見つめ自ら行動する児童の育成」(『自分から』)で特別活動を研究し、様々な場面で児童が『自分から』活動できる場面をつくったため、「自分でやっている」という自己効力感の高まりがでたと考える。また 学校側が取り組んできた「家庭学習の手引き」の配布や、昇降口・教室へのノート掲示により、自主学習が「宿題」の一つとして生活リズムに組み込まれた成果と考えられる。しかし、保護者：39.6% → 32.2% (-7.4pt下降) 教職員：84.6% → 84% へと微減した。児童と保護者の中で評価にギャップが起きている。今後、学校で掲示している「輝く自主学習ノート」を、学校便りや配信アプリで定期的に知らせ家庭と児童の学びを共有していきたい。また授業で自ら課題を設定する場面を増やし、その続きを家庭で行いたくなるような「探究のサイクル」の構築を目指していきたい。

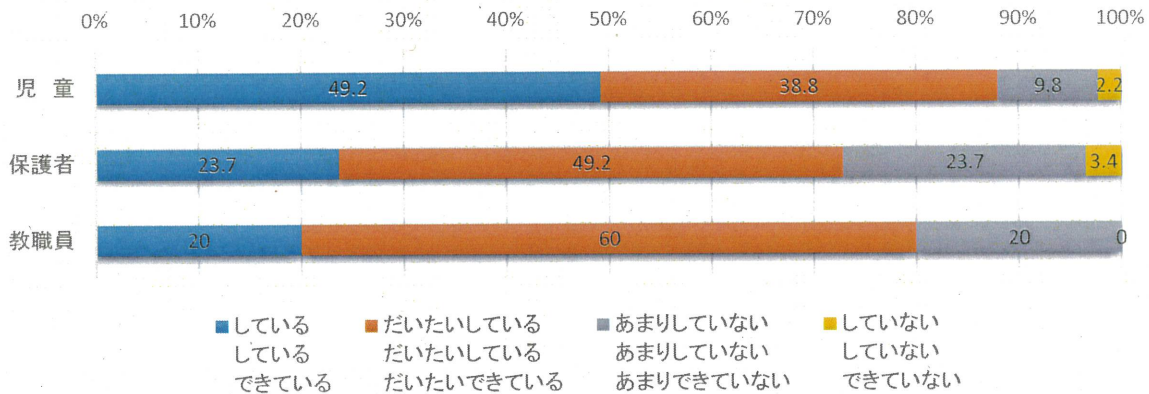
調査結果と考察

④気持ちの良いあいさつの励行

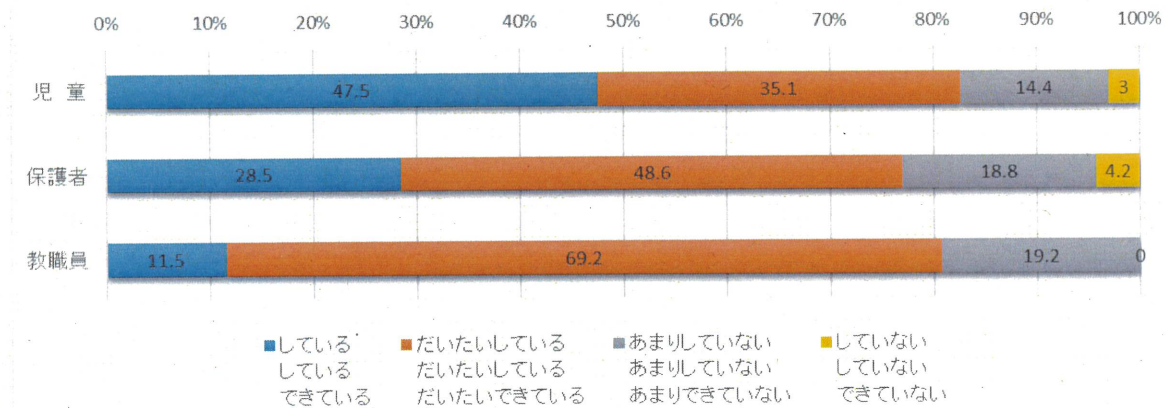
対象	質問事項
児童	あなたは、気持ちの良いあいさつをしていますか？
保護者	お子様は、気持ちの良いあいさつをしていますか？
教職員	あなたは、気持ちの良いあいさつができる子どもを育てることができていますか？

	している している できている	だいたいしている だいたいしている だいたいできている	あまりしていない あまりしていない あまりできていない	していない していない できていない	(%)		
児童	49.2	38.8	9.8	2.2		児童	202名
保護者	23.7	49.2	23.7	3.4		保護者	122名
教職員	20	60	20	0		教職員	25名

令和7年度気持ちの良いあいさつの励行



令和6年度気持ちの良いあいさつの励行



「している」「だいたいしている」が昨年度と比較し、児童:82.6% → 88%(+5.4pt上昇)、教職員: 80.7% → 80%、保護者: 77.1% → 72.9% (-4.2pt)の結果となり児童と保護者のギャップがみられる結果となった。学校長の「自分から」というメッセージがわかりやすく、児童があいさつを実行することで、達成感を得るようになった。また、生活指導委員会から全校への挨拶運動呼びかけやGAPなどの取組と今年度も年間実施している5年生の挨拶運動と下校時の教職員の校門にたち挨拶を継続して実施している。保護者の-4.2pt下がった。「学校内(先生や友達)」では挨拶ができていないものの、「家庭」や「近所の方」に対して、保護者から見ると「もっと自分から進んでやってほしい」という期待とのズレがでたと考える。挨拶はコミュニケーションの大きなツールであり、人と人をつなぐ大きな役割があることを教職員自身が見本となって気持ちの良い挨拶を行い児童に伝えることで、学校だけでなく様々なところで挨拶ができるような児童を育てていきたい。

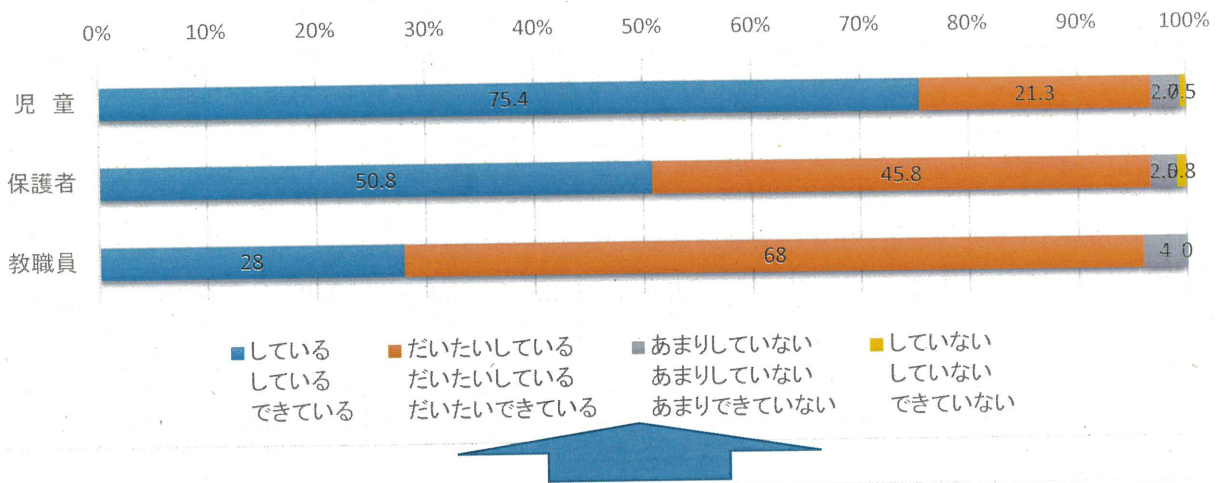
調査結果と考察

⑤仲間を大切にし、支え合う関係づくり

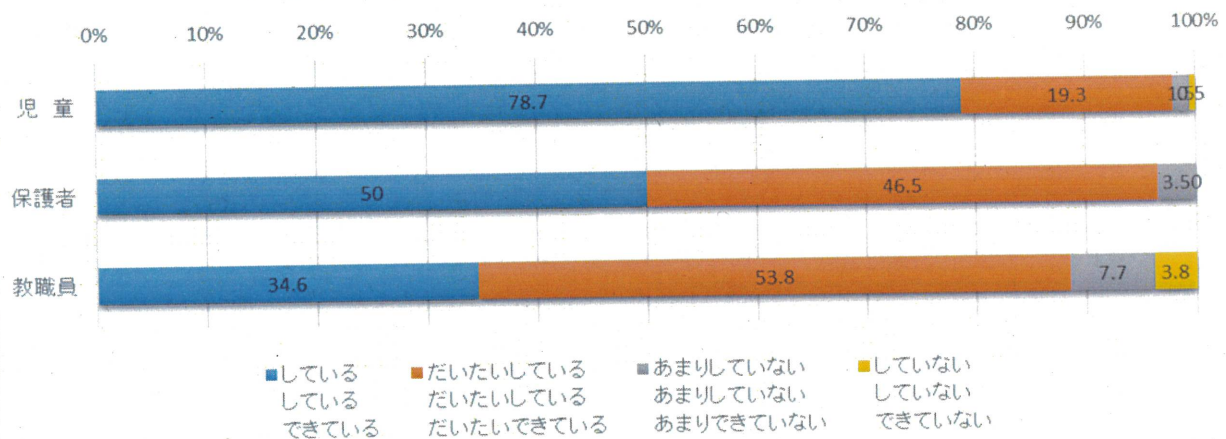
対象	質問事項
児童	あなたは、友達を大切にし、協力したり助けたりしていますか？
保護者	お子様は、友達を大切にし、協力したり助けたりしていますか？
教職員	学校やあなたは、仲間を大切にし、支え合う関係ができる子どもを育てることができていますか？

	している している できている	だいたいしている だいたいしている だいたいできている	あまりしていない あまりしていない あまりできていない	していない していない できていない	(%)		
児童	75.4	21.3	2.7	0.5		児童	201名
保護者	50.8	45.8	2.5	0.8		保護者	122名
教職員	28	68	4	0		教職員	26名

令和7年度仲間を大切にし、支え合う関係づくり



令和6年度仲間を大切にし、支え合う関係づくり



肯定的な回答は児童：98% → 96.7%、教職員：88.4% → 96%、保護者：96.5% → 96.6% 児童・保護者・教職員ともに96%を超える極めて高い肯定回答となりました。ICT導入により個別の学習機会が増える中で、異学年活動(チャレンジ班)や幼小交流、地域ボランティアとの交流、出前授業、人権集会といった「対面での関わり」を重視した活動が、ポイントの上昇となった。しかし、児童の「(友達を大切に)している」という強い肯定層が78.7%から75.4%へと微減してる。今後も、さまざまな人との関わりを通して、なかま意識の向上、支え合える関係の深まりを目指していきたい。何よりも児童一人一人の様子をしっかり把握し、孤立している児童や困っている児童がいれば声をかけて指導・支援を大切にしていける。また保護者と連携し「早期対応」と「丁寧な情報共有」を継続し、「子どもに寄り添う指導」することを常に心がけていきたい。

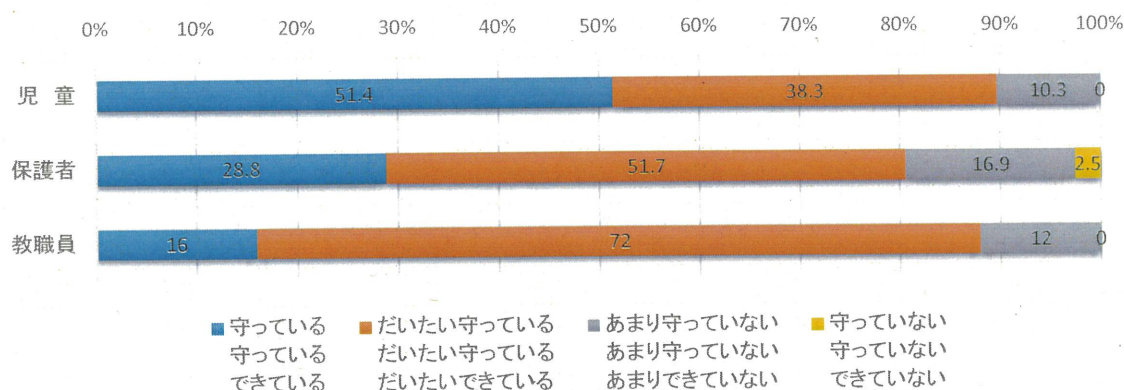
調査結果と考察

⑥決まりや約束を守る自律心の育成

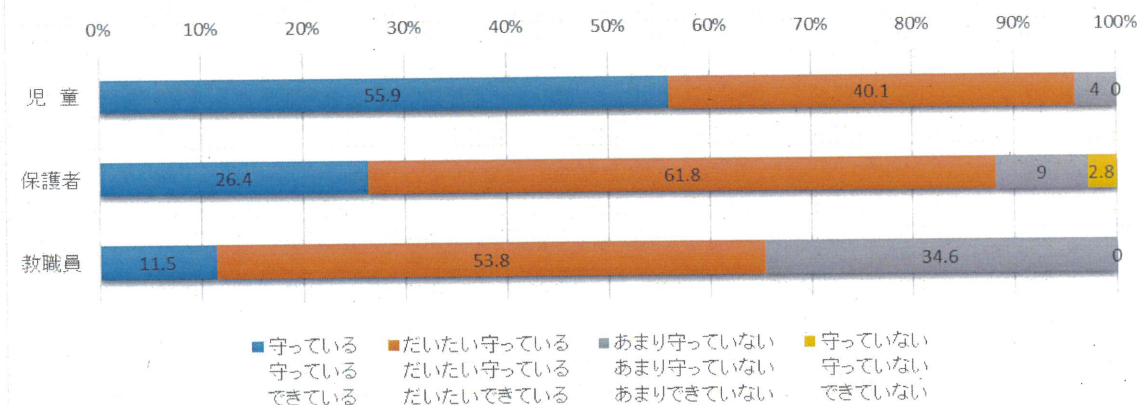
対象	質問事項
児童	あなたは、決まりや約束を守って生活をしていますか？
保護者	お子様は、決まりや約束を守って生活をしていますか？
教職員	学校やあなたは、決まりや約束を守る子どもを育てることができますか？

	守っている 守っている できている	だいたい守っている だいたい守っている だいたいできている	あまり守っていない あまり守っていない あまりできていない	守っていない 守っていない できていない	(%)		
児童	51.4	38.3	10.3	0		児童	201名
保護者	28.8	51.7	16.9	2.5		保護者	122名
教職員	16	72	12	0		教職員	25名

令和7年度決まりや約束を守る自律心の育成



令和6年度決まりや約束を守る自律心の育成



児童：96% → 89.7%、(-6.3pt) 保護者：88.2% → 80.5% (-8pt) 教職員：65.3% → 88%、(+22.7%上昇)という肯定的な評価である。
 昨年度、教職員の肯定評価は65.3%だったが、今年度は88.0%と大幅に上昇した。昨年度の分析で「主体性を重んじるあまり、指導すべき場面での声かけが不足していた」という反省があったことを踏まえ、今年度は教職員間で「北小っ子のくらし」の共通理解を深め、組織的な見守りと適宜の指導を強めた。
 児童の38.3%、保護者の51.7%が「だいたい守っている」と回答する。教職員も72%が「だいたいできている」としており、完璧ではないものの、多くの児童が決まりを意識して生活しようとする「自律の途上」であることがうかがえた。しかし児童と保護者のポイントが昨年度より下がっているため、今後も継続して決まりや約束がある意義を子どもたちに伝え、学校全体・学年・学級で適宜指導を行っていき、「北小っ子のくらし」について共通理解を深め、たくさんの目で一人ひとりの児童を見守り、保護者の方にも、ご理解、ご協力をいただけるように、粘り強く指導・支援をしていきたい。

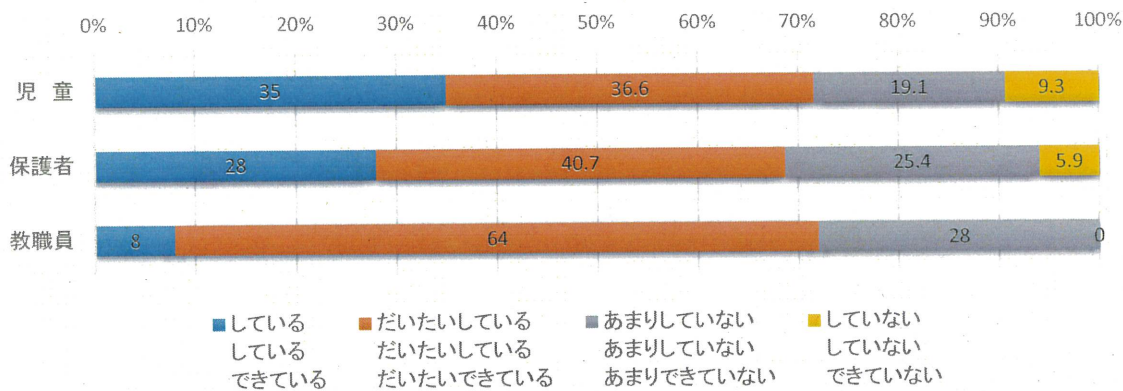
調査結果と考察

⑦基本的な生活習慣の定着「早寝 早起き」

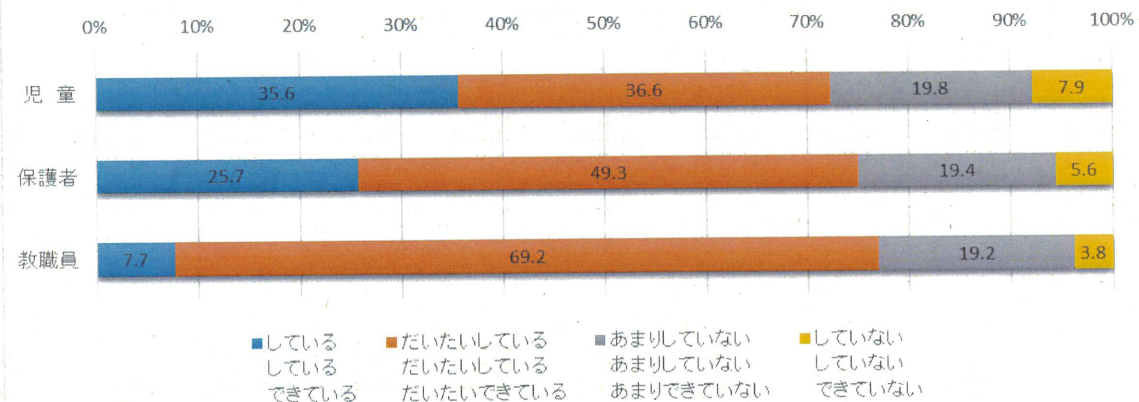
対象	質問事項
児童	あなたは、早寝、早起きをしていますか？
保護者	お子様は、早寝、早起きをしていますか？
教職員	学校やあなたは、早寝、早起きができる子どもを育てることができていますか？

	している している できている	だいたいしている だいたいしている だいたいできている	あまりしていない あまりしていない あまりできていない	していない していない できていない	(%)		
児童	35	36.6	19.1	9.3		児童	201名
保護者	28	40.7	25.4	5.9		保護者	122名
教職員	8	64	28	0		教職員	25名

令和7年度基本的な生活習慣の定着「早寝 早起き」



令和6年度基本的な生活習慣の定着「早寝 早起き」



児童：71.2% → 72.2%、保護者：75% → 75% 教職員：76.9% → 76.9%と全体に昨年度と変化はなかった。児童、保護者、教職員のいずれにおいても、約4分の1が生活習慣に課題がある(あまりしていない・していない)と捉えている。これは、「一応は寝かせているが、理想的な時間ではない」「指導はしているが、実態が伴っていない」といった、「限界」を感じている大人が増えているのではないかと考える。

社会全体の生活習慣が変化し、テレビ・ゲーム・スマホといったメディア接触時間の増加している。本年度は6年生が「スマホ安全教室講座」で学習したことを生かし、各学年にあわせた資料「スマタプネットブック」を作成して全校に広げる活動や栄養教諭の先生を招き各学年食事について出前授業をおこない児童が自分から考え取り組んだ。

小学生の成長時期は、早寝早起きなどの睡眠時間の確保はもちろんのこと、栄養のバランスの良い食事の摂取、運動遊びなどの適度な運動をすることが学力向上や体力向上につながるため、今後も学校と家庭が連携して児童の基本的な生活習慣の改善に取り組んでいきたい。

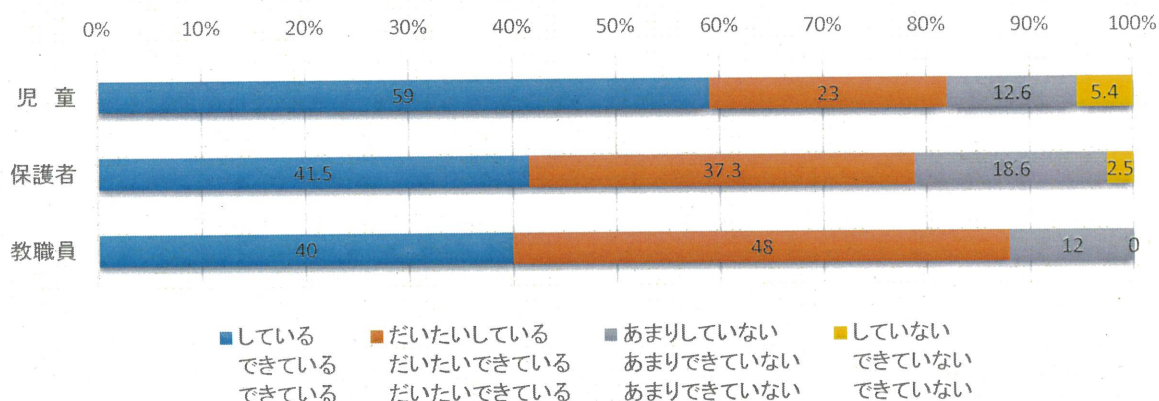
調査結果と考察

⑧外遊びの励行

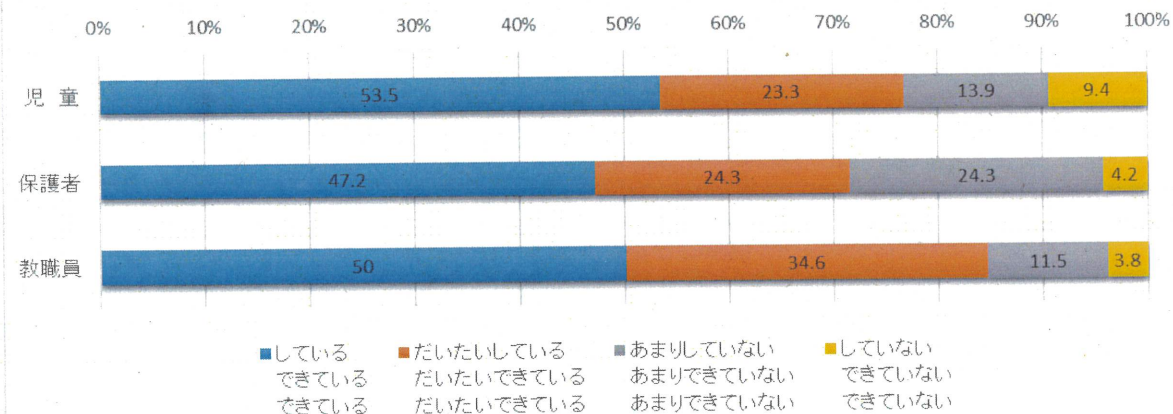
対象	質問事項
児童	あなたは、学校の休み時間や放課後に外で運動遊びをしていますか？
保護者	お子様は、運動に親しむことができますか？
教職員	学校やあなたは、外で運動遊びをする子どもを育てることができますか？

	している できている できている	だいたいしている だいたいできている だいたいできている	あまりしていない あまりできていない あまりできていない	していない できていない できていない	(%)		
児童	59	23	12.6	5.4		児童	201名
保護者	41.5	37.3	18.6	2.5		保護者	122名
教職員	40	48	12	0		教職員	25名

令和7年度外遊びの励行



令和6年度外遊びの励行



児童：76.8% → 82.0%、保護者：71.5% → 78.8% 教職員：84.6% → 88.0%と全体に昨年度に比べ肯定的な意見が上がった。

肯定回答が82.0%まで向上したのは、昨年度から続く運動委員会が企画した「ドッジボール大会」「大縄跳び大会」といった児童が楽しみながら参加できる取組と出前授業としてアスリートに来ていただき夢や走り方を教えていただいたことも成果となり、休み時間の外遊び、運動に繋がる取組を今年も実施したことで楽しみながら体を動かす機会が確実に増えたと考える。外の遊び(運動)の良さを体感させ、生涯スポーツにつなげていきたい。

新庄北小学校は広い運動場と低学年広場もあるため、平日の運動場や低学年広場を開放している。北小だより等で開放時間等を伝え、児童が運動遊びができる場所を伝えていきたい。

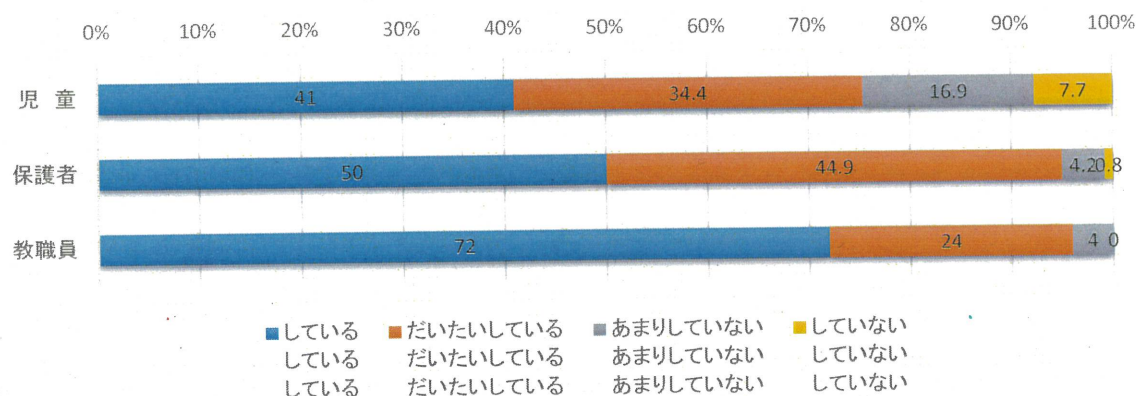
調査結果と考察

⑨信頼に応える教職員、保護者との連携

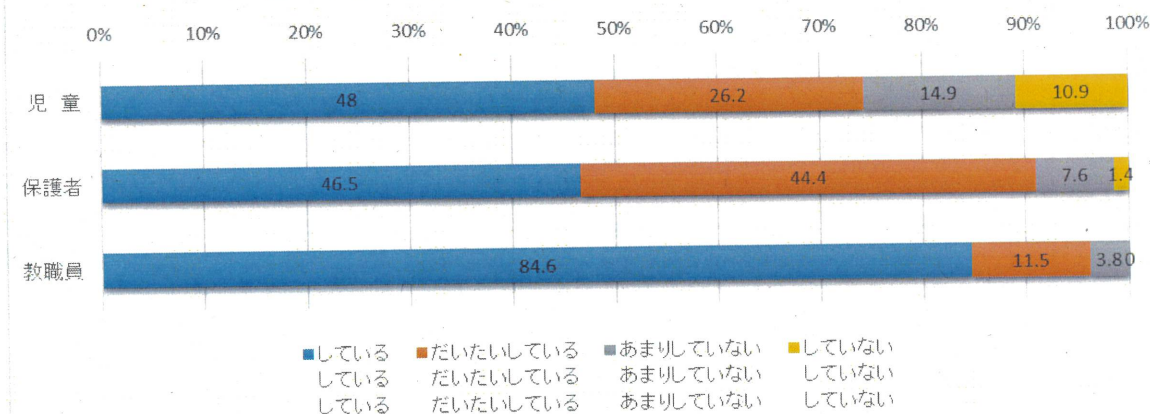
対象	質問事項
児童	あなたは、困ったときに先生にも相談をしますか？
保護者	学校や教員は、お子様や保護者の相談(思いや考え)を受け止めようとしていますか？
教職員	学校やあなたは、子どもたちや保護者の相談(思いや考え)を受け止めようとしていますか？

	している している している	だいたいしている だいたいしている だいたいしている	あまりしていない あまりしていない あまりしていない	していない していない していない	(%)		
児童	41	34.4	16.9	7.7		児童	201名
保護者	50	44.9	4.2	0.8		保護者	122名
教職員	72	24	4	0		教職員	25名

令和7年度信頼に応える教職員、保護者との連携



令和6年度信頼に応える教職員、保護者との連携



児童：74.2% → 75.4%、保護者：90.9% → 94.9% 教職員：96.1% → 96.0%と全体に昨年度に比べ肯定的な意見が上がった。
 保護者の肯定的な回答が9割を超えており、昨年度(90.9%)から今年度(94.9%)にかけてさらに向上した。家庭訪問、個人懇談、電話連絡といった日々の密な連携が保護者の信頼に繋がった。
 児童の「あまりしていない」「していない」という児童が25.8% → 24.6%と横ばい状態である。児童が担任だけでなく、北小学校の職員に相談できるように児童の心に寄り添う指導と支援を今後も心がけていきたい。また今後も保護者の信頼を維持するため、対面での連携に加え学校での取組をさらに積極的に発信し可視化できるようにしていきたい。
 教職員は「アンテナは高く、目線は低く」ということを常に意識しながら、児童の日々の変化を見逃さず、積極的に声をかけるとともに、児童の悩みや不安を相談しやすいような雰囲気のある学校・学級づくりに努めていきたい。

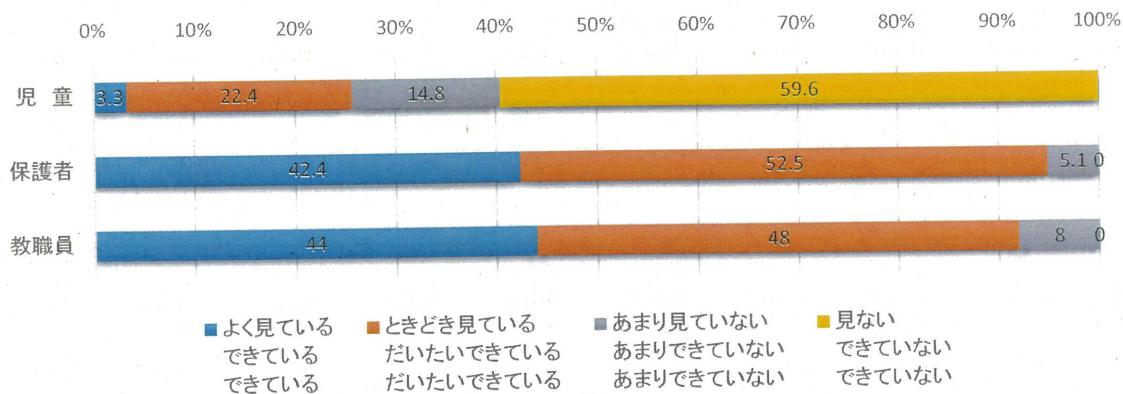
調査結果と考察

⑩学校での教育活動を積極的に発信

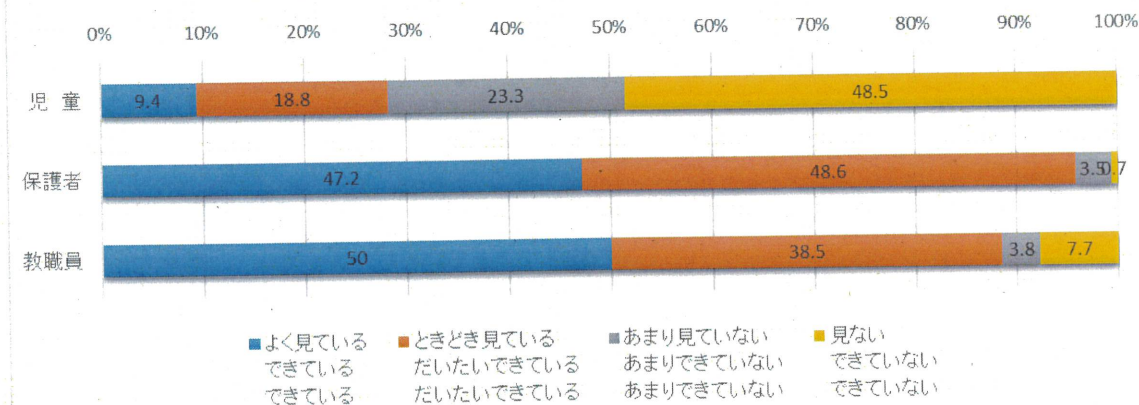
対象	質問事項
児童	あなたは、学校のホームページをみますか？
保護者	学校は、各種たよりやホームページ等を通して、家庭に学校の情報を伝えることができますか？
教職員	学校やあなたは、各種たより(学級通信等も含む)やホームページ等を通して、家庭に学校の情報を伝えることができますか？

	よく見ている できている できている	ときどき見ている だいたいできている だいたいできている	あまり見ていない あまりできていない あまりできていない	見ない できていない できていない	(%)		
児童	3.3	22.4	14.8	59.6		児童	201名
保護者	42.4	52.5	5.1	0		保護者	122名
教職員	44	48	8	0		教職員	25名

令和6年度学校での教育活動を積極的に発信



令和6年度学校での教育活動を積極的に発信



児童：28.2% → 25.7%、保護者：95.8% → 94.9% 教職員：88.5% → 92%と保護者と教職員の肯定的な回答が上がった。

今年度も児童のの様子や学校の行事等を、写真だけでなく動画配信をtetoru配信やホームページを活用し発信してきた。しかし、児童の肯定的な回答は低く児童は学校のホームページをあまり見ていないことがわかる。学校や児童の様子は、tetoru配信やホームページ、新聞など様々な形で発信している。そのため、今回の調査において「あなたは学校のホームページをみていますか」というホームページに断定した質問がこのような結果に繋がったと考える。また今年も給食時間の学校長の放送でホームページや新聞などに触れ、児童の活躍や地域の行事などが載っていることを伝え発信しているが、それだけでは、ホームページ閲覧には繋がっていない。児童に身近にホームページに興味・関心をもつ環境をつくるため、学校長の放送だけでなく委員会の放送や学校のHPのQRコードを掲示するなど整えていきたい。保護者だけでなく、地域の方や学校外の方にも北小の様子を知ってもらえる機会をホームページなどで発信していきたい。